

大阪府市場だより



第397号 令和7年3月31日
 発行 大阪府中央卸売市場協会（茨木市宮島1-1-1水産棟3階）
 連絡先 TEL：(072)636-3698、FAX：3699、メール：office@fu-ichiba.jp
 URL https://fu-ichiba.jp



常駐代表者会議

標記会議（川邊浩一議長が3月21日、管理棟4階で開催されました。議事概要は次のとおりです。

■府からの報告

□取扱高等

令和6年4月～7年2月累計速報値
 前年度比較で、市場全体の取扱高は金額ベースで約36億円、4.4%増、直接集荷は金額ベースで約45億円、3.7%増。

□R7 2月定例府議会の動き

つらべ議員が水産売場の低温化とその電気代の負担問題について質問。

□常駐代表者から

○取扱高の金額が増えて量が減っていることを府はどう評価しているのか。

（大阪府）取扱数量の減少は、生産量の減少が一因と思われる。取扱金額のみ増えれば良いとは思っていない。



絵：「はっさく」

○議会質疑で、つらべ府議が市場会計の留保資金の有効活用や、電気代は府が負担すべきと発言されているが、府はこう考えるのか。

（大阪府）今回の低温化については、当面の措置かつ可能な範囲内での対応としており、留保資金は活用しない。また、電気代については、現在の施設使用料には算入されておらず、受益を受ける水産部門に負担を求めるもの。

○仮に青果も低温化を図ることで市場全体で低温化を図ることになるため、それに伴い電気代の負担に対する考え方も変わるという理解か。

（大阪府）青果でどのような整備をするのかにもよるが、ランニングコスト等も含め使用料に転嫁しないとすると、受益の範囲を見極めた上で、負担をお願いしていくことになる。

○今回の低温設備は共用区域に設置するのであって、従来から共用区域の電気代は業者に負担を求めている。

○施設の償却が終わっており、再算定すれば施設使用料は下がるはず。再算定をしないのか。（大阪府）留保資金があるとは言え、累積赤字もあり、使用料が下がるかどうかは算定してみなければわからない。指定期間の関係や、再整備が検討途中にあることなどを踏まえ、今回使用料の再算定はしていない。

■管理センターからの報告

□活性化事業

○ハード事業

- ・水産せり場5～6番柱間北側床面改修工事「3/6（木）完成」
- ・水産駐車場西側ハイポール灯2基改修工事「3/6（水）完成」
- ・管理棟西側災害用マンホールトイレ設置工事「2/27（木）完成」
- ソフト事業
- ・市場見学・視察
- ・京阪百貨店「中央市場お買い物見学ツアー」¹「4/18（金）」

協力：（株）林田商店、拓新水産（株）、近畿中央ヤクルト販売（株）
 京阪百貨店の春の大感謝祭として、毎年実施。今年も、京阪百貨店40周年記念特別企画としてヤクルトに協力いただき、「健康教室を実施していただく」予定。

- ・大学連携
- ・追手門学院大学経営学部経営学科村上ゼミ²「5/20（火）」
- ・梅花女子大学食文化学部管理栄養学科³「26（月）」

□維持補修事業

- ・R6年度⁴「3/20」173件、5千989万円（税抜）
- ・青果せり場トップライト破損6ヶ所改修工事「1/27（月）」
- 3/27（木）

□大阪府依頼事業

- ・R6年度水産A棟低圧幹線設備他改修工事「3/10（月）完成」

□□み関連

- 不法投棄

管理センター取締役会

管理センター取締役会が、3/21(金)、朝7時25分から管理棟で行われ、市場再整備への対応や市場活性化の取組等を内容とする令和7年度事業計画と水産B棟低圧共用幹線設備改修工事の内容とする令和7年度大阪府依頼工事の2件の議案が全会一致で承認されました。

市場再整備に関する
卸4社検討会議

3/22(土)、卸4社のトップの出席のもと、大阪市本場で標記会議が開催され、府市場の老朽化に加え、これからの府市場に求められる機能を実現するため、建替えによる再整備を進めることを前提に、引き続き、関係者間での協議・調整を図ることの見解で一致しました。

災害用マンホールトイレ完成

災害に強い市場づくりの一環として管理センターが進めてきた標記トイレが、2/27(木)、完成し、3/21(金)、メーカーによる現場説明会がありました(名称「災害用トイレ配管システム下水道直結型」)。管理棟西側の通路に設けられました。下水道本管に直接排水できる衛生的な構造で、東日本大震災

の避難所で活躍した設備であるとされています。開閉治具を用いてマンホールトイレ蓋を開け、洋式便座を梱包袋から取り出して調整プレートに設置し、トイレントで覆えば完成です。



ボーリング大会

3/8(土)、高槻ラウンドワンで、43名のご参加のもと、今年度最後の福利厚生事業であるボーリング大会を開催しました。トップ3に入賞された皆さんは、2ゲーム中1ゲームで200点超えをするという優秀な成績でした。

- 優勝 曾和幸行さん 北果
- 準優勝 佐野浩之さん やまふじ
- 第三位 佐藤琢磨さん タカシヨウ



衛検
だより

食品衛生検査所での食品検査を紹介します

当所では、大規模流通拠点である府市場における食の安全を確保するため、年間計画に基づき生鮮食品及び加工食品の検査を実施しています。大きく分けて「収去検査」、「現場検査」、「場内流通品の検査」という3種の検査があり、今回はそれぞれの内容を、令和6年度(6年4月〜7年2月)の実績と併せて紹介します。

○収去検査

食品衛生法・食品表示法に基づき、食品等を必要最小量採取することを収去と言います。当所では、食中毒菌等を検査する細菌検査と、食品中に残留する農薬等を検査する理化学検査を実施しています。

今年度は細菌検査を201検体、理化学検査を155検体で実施しました。そのうち、理化学検査において漂白剤の使用基準を逸脱していた食品を1検体発見しました(食品衛生法第13条第2項違反)。当該品は全量出荷前であったため、当所職員立ち合いのもと全量廃棄しました。その他収去検査により食品衛生法違反となる食品はありませんでした。

○現場検査

セリ前のマグロ魚体表面の温度測定や細菌検査(一般細菌、黄色ブドウ球菌、腸炎ビフ

リオ等)を1020検体、ちりめんの殺菌や漂白に用いる過酸化水素の検査を107検体、場内に陳列されている食品の温度測定を233検体で実施しました。特に夏場では一般細菌数や温度が高い傾向にありますので、食品を陳列する際は適切な温度管理を心掛けましょう。

○場内流通品の検査

場内事業者を対象に、取扱食品の細菌検査(一般細菌数、大腸菌群・黄色ブドウ球菌)を月1回無償で受け付けています。来年度の検査予定は表のとおりです。検査をご希望の場合は、予定日の約2週間前までに予約をお願いします。

○令和7年度 場内流通品検査予定

4月21日(月)	10月6日(月)
5月12日(月)	11月25日(月)
6月16日(月)	12月実施なし
7月28日(月)	1月6日(火)
8月25日(月)	2月24日(火)
9月8日(月)	3月9日(月)

令和7年度も引き続き各種検査を実施予定です。ご協力のおかげで、日々の衛生管理の検証に、収去検査や場内流通品の検査をご利用ください。

卸売業者取扱高

《2月・単月》

	種類	数量(kg)	前年比%	金額(千円)	前年比%
青果	野菜	9,944,288	87.2	2,977,604	113.3
	果実	3,443,149	89.7	1,879,215	98.1
計	小計	13,387,437	87.8	4,856,820	106.9
水産物	生鮮水産物	970,997	91.0	1,335,651	103.1
	冷凍水産物	144,825	98.1	216,456	105.7
	加工水産物	555,563	97.4	700,179	96.1
	冷凍食品	335,364	109.2	214,049	118.7
計	小計	2,006,749	95.9	2,466,335	102.4
総計		15,394,186	88.8	7,323,154	105.4

《4月〜2月・累月》

	種類	数量(kg)	前年比%	金額(千円)	前年比%
青果	野菜	117,201,271	95.7	33,448,663	108.8
	果実	43,414,151	95.7	21,395,237	104.4
計	小計	160,615,422	95.7	54,843,900	107.0
水産物	生鮮水産物	13,818,633	103.0	16,062,716	102.6
	冷凍水産物	1,863,176	93.3	3,080,399	102.1
	加工水産物	7,006,612	93.9	9,851,876	93.1
	冷凍食品	4,024,635	105.8	2,481,808	112.0
計	小計	26,713,056	100.1	31,476,800	100.0
総計		187,328,478	96.3	86,320,700	104.4

《管理センター取りまとめ》

産地と大学連携

泉州きくな

魅力発信！ローション 試食会

3/4(火)午前8時から、青果卸売場で、JAいずみのと追手門学院大学経営学部村上ゼミの学生による「泉州きくな」の試食宣伝が開催されました。これは産地である泉州地域の3JAと大阪府泉州農と緑の総合事務所が実施している「泉州きくなプロジェクト」の一環として行われたものです。

泉州農と緑の総合事務所古本主査とJAいずみの野口課長代理から、大阪のきくなは5年連続全国1位の出荷量を誇っており、その多くの消費者に「泉州きくな」を届けたいとの挨拶がありました。当市場からは北葉高橋事務が挨拶し、新しいレシピの提案による販売促進を呼びかけました。

試食会ではサラダが提供され、好評でした。今後とも、食材の新しい楽しみ方や価値を提案する場として魅力を高められるよう、関係機関が連携しながら試食会を継続的に行っていきます。



JAいずみの野口課長代理と追手門学院大学の皆さん



徳島県漁業生産者の皆様の

市場視察

3/8(土)、徳島県南部の三つの漁協と徳島県関係者11名が来場され、午前6時30分からの水産仲卸店舗視察後、うおいち川邊支社長、大水花木支社長、水産組合杉江副理事長、管理官前専務との意見交換が行われました。

徳島では、行政や漁業団体が設けた公益財団法人が漁業従事者養成のための「こくしま漁業アカデミー」を開催しており、今回の来場はその中の経営高度化支援事業として実施されました。

意見交換では、漁業経営基盤強化をテーマに、「来場の皆様から海水温上昇など自然環境の変化が魚種・漁獲に影響を及ぼしていることや未利用魚の活用に取り組みされていることなどの報告があり、当市場関係者から、鮮度の保持や魚種に応じた加工、SNS活用等による効果的なPRなど、流通販売現場から見た工夫のあり方等についての提言がなされました。



飛騨野菜出荷組合

市場訪問

3/18(火)、飛騨野菜出荷組合(今井秀和組合長、JA全農岐阜、JAひだ営農部園芸課の22名)が市場を訪問され、北葉三木支社長、青果組合西田理事長、管理官前専務など8名の市場関係者と懇談されました。

冒頭、出荷組合から、府市場とはこれまで地元元大学を含め緊密に連携しており、今後連携を深め、ほうれん草、トマトなど特産品の魅力をPRすることにも、府市場の立地の優位性から、京阪神地区における物流拠点としても府市場に期待しているとの挨拶がありました。

府市場からは、飛騨野菜を更に出荷して頂き、飛騨野菜の販売促進に役立つ事業を積極的に実施したい、産地を見学させていただきたいといった意見が述べられ、引き続き連携を密にすることで認識を共有しました。



飛騨野菜出荷組合 今井組合長



防災訓練&消防訓練

これまで同時に実施してきた標記訓練を、今回は分離して行い、内容が充実されました。会場は共に管理棟7階。

防災訓練

3/6(木)、参加者45名。まず、広瀬頼子氏(大阪ガスネットワーク株)が、「考える防災教室」をテーマに、新聞紙を使った即席の防寒対策など、緊急時の対処方策等をご教示くださいました。次いで、村田トオル教授(大阪青山大学)が、脳トシの要素や楽しめる工夫を交え、避難所のできる簡単な体操の実技指導をしてくださいました。

その後、7階から1階まで階段での避難訓練を行い、1階ロビーでは、茨木市消防本部の消防士4名が、心停止傷病者に対する胸骨圧迫とAED使用の実技を丁寧に指導してくださいました。



消防訓練

3/18(火)、参加者44名。冒頭、管理官から、今年度生じた場内火災時に自衛消防が消火に貢献したとの説明があり、次いで、7階湯沸かし場で出火した想定で、避難誘導など班別の行動訓練が行われました。その後、避難袋での管理棟6階からの避難訓練(8名参加)、管理棟前駐車場で消火器使用訓練(全員)が行われました。



避難袋で6階から降下



場内一斉大掃除

3/14(金)、今年度最後の場内一斉大掃除が行われました(水産・午前8時30分、青果・同12時)。皆さん、お疲れ様でした。



- ・件数(2月、2件) ↓ 対策開始前に比べ 94.0% 減少
- ↓ 不法投棄には、入場禁止等の行政処分、警察への通報。

- 2階、プラットホームの柱をガードレールで囲っている箇所に大量のゴミが廃棄されていた。中身が入ったガソリン携行缶、ボーリングの玉、台車などがあり、極めて危険。今回は管理モリが処分したが、産廃ということで普通ゴミよりも高額な費用が必要になる。このような状況が続くようであれば、プラットホームの使用に制限をかけるを得なくなるので、やめていただきたい。



- 青果くず排出状況(一)は前年度同月比
- ・ 4~2月までの累計
- ↓ 排出量 57027 トン (+2004 トン、+3.6%)
- ↓ 処理費用(税抜) 1千169万535円 (+41万813円、+3.6%)
- ※管理モリは1/2負担
- ※超過分は原因者負担制度を導入(R6.9月分)

- ↓ 大量排出は事前に管理モリまで連絡を(受け入れ態勢及び食品ロス削減)
- 木製廃棄パレット排出状況(一)は前年度同月比
- ・ 4~2月までの累計
- ↓ 排出量 5万150枚 (▲3千740枚、▲6.9%)
- ↓ 処理費用(税抜) 44万8千90円 (+24万190円、+5.7%)
- ※管理モリは1/3負担
- ↓ 外部の持込禁止、利用可能なパレットの再利用の徹底を。

- 一般廃棄物排出状況(一)は前年度同月比
- ・ 4~2月までの累計
- ↓ 排出量 1千70633 トン (▲21031 トン、▲10.5%)
- ↓ 処理費用(税抜) 1千468万9千64円 (▲172万718円、▲10.5%)
- ・ こみ処理費用が4月から値上がりする。減量をお願いする。
- 禁煙対策
- ルール違反の状況
- ↓ 通告書交付(違反者) 累計 394件(場外104件)
- ↓ 警告書交付(再違反者) 累計 32件 ↓ 更に累犯で入場禁止
- 「喫煙ルール」の強化
- ↓ 悪質な違反行為(※)に対する罰則の強化等(入場禁止)(※)常習違反、吸殻のポイ捨て、注意指導に従わないなど
- ・ 先日、徳島と飛騨から、産地の皆さんに視察していただいた際、売り場通路で喫煙している人がいると産地の方から指

- 摘され、恥ずかしい思いをした。警備が巡回を強化しているが、禁煙指導員の皆様にも協力をお願いする。
- (大阪府) 府としても、査察担当が従来よりも広い範囲で巡回指導をしている。先日の大掃除の際、水産エリアで吸い殻のポイ捨てが目立っていた。仕事場の床面にポイ捨てるなど、あるまじき行為だ。
- 交通安全対策
- 場内交通事故の多発(4月~2月)

人身事故	9件	(5件)
物損事故	47件	(51件)
うち市場施設の物損	27件	(18件)
うち車両同士の衝突	20件	(33件)
合計	56件	(56件)

()内は昨年度同時期の件数

- ▶ 昨年度に比べ人身事故が増えている。最近では、3/10に2件、3/18に1件。お互いの不注意が原因(横断歩道外の道路横断、一旦停止の懈怠、スピードの出しすぎ)。

- 議長から
- ・ 人身事故が増えているのは遺憾。各社、従業員指導をよこしく。
- 鳥獣対策
- カラス対策
- ・ 捕獲数(4/1~3/20) 1千136羽
- ソ族ネズミ等対策
- ・ ネズミ捕獲数(4/1~3/20) 166匹

□ その他

- 市場再整備卸4社検討会議(3/21土) 900名
- 「3月毎月賞金の徴収(4月より) 事務所のみを賃貸している事業者を対象、500円/月/件
- 協会からの報告
- 部会からの報告
- 花木計量部会長から、3月3日月)から、青果仲卸の計量検査を行い、216台検査し213台が合格、3台が不合格であったとの報告があった。
- 西田安全部会長から、4月10日(木)からの全国交通安全運動周知の要請があった。また、場内で人身事故が多発している事態を受け、車両運転時には、周知に注意することにも、譲り合いの心をもって事故のない市場となるよう各社・団体に対し、指導・啓発の要請があった。
- 事務局からの報告
- 事務局長から、協会財政が厳しい状況にあり、年度末の支払い処理のため、3月分会費はできれば(2)木午前中に振り込んでくださるよう依頼があった。

■ 水産部門における市場まっりの実施について

- 常駐代表者から水産組合に対し、組合独自の市場まつり開催の検討状況に関する質問があり、榎本理事長から、実施する考えであるとの発言があった。また青果組合西田理事長から、コスト面での不安はあるが、青果も

- 相乗りする方向で組合内の調整は可能との発言があった。また、実施時期や実施規模等を早期に決める必要があること、チラシ配布等のPRをして集客を増やすべきであること、市の農業祭との日程の競合を避けるべきであること、スワイガ二解禁後にやるべきであること、高校プラスバンドに演奏の機会を与えるべきであること等の意見があった。

■ 議長から

- 年度末にあたり、1年間お世話になったことに感謝。来年度も、皆さんと議論を重ね、業務を進めたい。

人権問題研修会

- 2/27(木)午前11時から、管理棟7階で「メンタルヘルスクエア・職場での支援のあり方」をテーマに、社会保険労務士の松井一恵様を講師に迎え、標記研修会を開催しました。38名が受講し、メンタル不調を訴える人の状態を把握するための対話のコツや安全配慮義務など法令上の留意事項等を学習しました。

